

幼な児の如くに

1958（昭和三十三年）八月六日 賀川豊彦 70歳

青山学院で開催の第十四回世界基督教教育大会開会式でのメッセージ。

“我々は古き時代の文明にもう疲れてしまいました。

イエス・キリストは「人もし新に生れずば、神の国に入ること能わず」と云われました。イエスは子供が好きであつたんです。イエスは何回も「子供のようにならなければ、天国に入れぬ」と云われました。だから私のような者、又指定席のあなたのような者はもう一遍生れ変わる必要があるのです。私はイエスの云われたことは本当だと思ふのです。

イエス・キリストは「天の父」ということを云われました。この天の父と云ふことの信仰は、簡単な信仰で、無限とも云わず、絶対とも云わず、いろんな哲学的な言葉も使わずに、天の父と云われたのです。もう一度私共は89イエスの云われた赤ん坊の宗教に帰つて行く必要があると思ふのです。

イエスは子供等が来ることをとめた弟子達を、叱りつけなすつて、「子供等を我に来らせよ」と云われました。けれども我々の今の社会制度は子供にはあまりいい時代ではありません。即ち戦争はあるし、悪い不道德の部分はあるし、階級制度はあるし、とにかく悪い時代です。私はもう一遍赤ん坊から出直したいんです。私はこのローマ時代のような悪い時代に、イエス・キリストのような飛びきり革命的な赤ん坊の時代を作れと云われたことは不思議で不思議でたまらないんです。私は東京でももう一遍出直しが必要だと思ふんです、これはもうロンドンやニューヨークも、ベルリンもどこもかも皆同じです。もう一遍赤ん坊になるんです。裸で歩けます、そして美しいし、日本の娘達がいい着物を着ていても、けれども実際あれはボロです。

私は要するに、もう一遍赤ん坊の文明が来たらと思ふのです。戦争も無いし、虚飾もないし、人のどういふ人種が来ても、どういふ色の人か来ても、親切にしてくれる人は喜んでついて行きます。赤ん坊はいつでもじつとしていません、もういつでもこう動いております。それを文明にたとえると発明や発見の時代なんです。もう少し人間

が成長し、人間が発明し、国境を越えて、皆んな全世界の人が助くる、いい世界をつくつたらいい時代と思ふんですがネ。私はおかしくつてしかたがないのは、地球つて、たつた直径が八千哩しか無いんでしょ、そんな中に九十くらいの国を作つて、それで喧嘩ばかりしてある、こういう時代をもう一遍、イエス・キリストのような気持ちに作り変えて、赤ん坊になるんですね、もう一遍。

まあ第一に赤ん坊は夏は着物を着ませんですよ。うちの子供等は裸で走り廻つています。あなたにそう云つたら怒るでしょうけども、実際はこんな着物は、...着物なんか着ないのが一番いいんです。私はアダム、エバはこんな着物は着るとは思わんです。

私はもう一遍イエス・キリストのような無邪気な時代を作つてほしいと思ふんです。この時代が生まれ変わったならば、いい時代が来ると思ふんです。それで私はその時代がだんだん来るんぢやあなかつて、イエス・キリストが云うように、天から来なければならぬと思ふのです。私は世界各国の友達が来たけれども、その愛する兄弟姉妹達の刺激によつて、日本が生れ変つて、日本が今度は神の福音を世界に広めるように、神の国の一番聖い処の一部になりたいと思ふのです。

私は先程大勢の兄弟姉妹達が並んでいるのを見て、まあ何という沢山の人か来たんだろう。キリストがなかつたらあんな光景は見られないんです。しかし、なおいいことは、我等がもう一遍、イエス・キリストが云われた、赤ん坊の時代に帰ることなんです。

いろんなロケットを作つたり、原子爆弾作つたり、軍艦作つたり、空爆の飛行機を作らないで、もう一遍赤ん坊の時代を作りましょう。

世界各国から来て下さつた方、お礼を申します。しかし日本からも一つ贈物があります。それは「赤ん坊になりましょう」と云う言葉です。”

（賀川豊彦全集 24巻より引用）